

郷土史探訪

征露軍人記念塔

(堀田の田屋地蔵)

松岡謙一郎

堀田の高速道路切り通しの西側の高台に、多くの石仏や石碑が集められ祀られている。その一角の一番海側に等身大の不動明王石仏が北を背に南向きに祀られている。その銘に明治三十八年一月建設と刻まれていて、まさに日露戦争時の旅順開城、水師營の会見が行われたその時である。前年十一月からの旅順総攻撃・二〇三高地の激戦を征し、乃木大将とステッセル中将の会見が行われ、日本中が戦勝気分沸き返った時に、この記念塔が建立された。

その発起人は、少講義・大石源治郎と十八世大和尚・村上嶺洲となっている。大石家は今はなく、石仏石碑群と道路を挟んだ反対側の空地が屋敷跡だと伝えられる。村上大和尚は高速道路切り通しの東側をやや下った海雲寺の第十八世住職であろう。

少講義とは、簡単にいえば明治維新の後、国民教化のために創った教導職制度の一つの階級である。(『別府史談第二十二号』の岡部光瑞氏の論説を参考にしていたきたい。) まさに、少講義にとつては国家神道を基に、国民教化を図ろうとする絶好の機会であつたと思われる。今一人の発起人は、曹洞宗の住職であるのが不思議であるが、この方は、北白川宮成久王殿下覽古碑建立(『別府史談第二十二号』参照)寄付者の記念碑と思われる「尊王民」石柱にも名を連ねている。

この石仏は、元々は切り通しに切り落とされた高台にあつたというが、その周りや雰囲気は今では知るすべはない。写真等が残っていれば提供していただけるとありがたい。その移転記念碑には

田屋地蔵

不動尊移転記念

平成元年四月吉日

六組一同

とあり、道路公団により移されたという。

石物の台座に、氏名が刻まれており、建立賛同者がわかる。台座の一番上に大きな文字で右から左に「征露軍人記念塔」と刻み、その下に「少講義 大石源治郎」「十八世大和

尚 村上嶺洲」と頭
に付け、次いで「富
区」と記したのち多
くの人名が記されて
いる。その名を次に
列挙してみる。子孫
の方もおられると思
うが、百年余り前の
ことなのでご了承願
いたい。なお、判読
不明の文字は「○」
で表した。「富区」



溝口八郎・甲
斐又市郎・西
村清吉・佐藤
○太郎・荒金
久太郎・荒金
房吉・伊藤太
吉・甲斐米吉・

平野清太郎・井上潮太郎・佐藤光治郎・熊○○太郎・熊野典
市・平野○吉・吉本○○・藤野○○吉・平野喜一郎とあり、
左側面に「大分郡賀来村○○」江良タツ・江良折平・「全村
○○」二宮茂雄・二宮由太郎・河野今平・町田虎吉・「○○
○町」宮田又郎・「富区○」金田貝一郎・金本元郎と記され
ている。左側面には、「大分郡永興 石工 大久保喜代治
明治三十八年 建設」と記されている。

今でも、花や蠟燭が供えられ、お参りがなされている。お
参りしている人に由緒を聞い
たら「いわれは知らない。お
不動様としてお参りしてい
る。」との答えが返ってきた。
田屋地藏と称えたり、不動明
王としての信仰としてのお参
りが今も続いているのは、建
立された当時の目的とは違う
形の信仰になっていると思わ
れる。庶民信仰の立場から研
究してみると面白い。今後の
課題としたい。

